

科目ナンバー	POL-B-5-07		
授業コード	22145		
科目名	人文学特殊講義（国際教養）A		
担当者	小宮山 功一郎		
開講期	2021年度春学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	3年	単位数	2単位
曜日/時限	水曜4限		
授業題目	インターネット時代の情報社会論		
授業の達成目標	<p>今日の我々の生活にインターネットをはじめとするサイバー空間の存在は欠かせない。本講義ではそのインターネットを中心とする現代の情報社会の歴史、要素技術を学ぶ。講義を通して学生は以下の点を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が日常的に利用しているオンラインサービス(ソーシャルメディア、各種アプリ)について、その技術的な仕組みの基本を理解する。</li> <li>・それらのサービスを利用者ではなく提供者の視野で理解する。</li> <li>・日本国内のIT産業の規模と大まかな構図を理解する。</li> </ul>		
今年度の授業内容	スライドや映像資料を中心に、講義形式で授業をすすめる。学生同士の議論とその内容の発表も取り入れる。		
自習に関する一般的な指示事項	特になし。		
授業スケジュール			
第1回	初回ガイダンス: この講義の狙い。情報社会論におけるインターネットの位置づけについて。		
第2回	インターネットのはじまり: インターネット以前のネットワーク、パソコン以前の計算機とはどのようなものだったか。		
第3回	Webの発明: ブラウザーとは何か? インターネットはどのように商用利用されていったか。		
第4回	通信プロトコル(TCPとIP): インターネットを可能にした技術は既存のネットワーク技術と何が違ったのか。		
第5回	日本のIT産業(ゲストスピーカーによる講義)。		
第6回	ソーシャルメディアの誕生: インターネット上での言論の社会的、法的位置づけの変化。		
第7回	オンラインサービスの収益モデル: サブスクリプションと広告はどう違うのか。		
第8回	国家とインターネット: インターネットを支配するのは国家か、企業か、あるいは市民社会か。		
第9回	クラウドコンピューティング: 設備を自分で所有しないことによるメリットとデメリットはなにか。		
第10回	海底ケーブルとデータセンター: 海底ケーブルとデータセンターがなぜ重要か、データセンターはなぜ特定の場所に集まるのか。		
第11回	家電や自動車のIT化(ゲストスピーカーによる講義)。		
第12回	日本のIT産業 その1: インターネット・Web		
第13回	日本のIT産業 その2: 情報処理サービス		
第14回	日本のIT産業 その3: ハードウェア		
第15回	総括: 情報社会論の可能性		
授業の運営方法	講師が投影するスライドを使いながら講義を行う。毎回授業後に、短い課題提出を求める。この課題提出をもって出席と判断する。		
成績評価の方法	※次の評価基準・割合に基づき評価されます。		
評価の種類	割合 (%)	評価方法、評価基準	
定期試験		0%	実施しない。
小論文・レポート		60%	中間、期末レポートの提出。
授業参加		40%	発表、討論参加、質問、コメントなどの授業参加と毎回授業後のリアクションペーパー提出を以て判断する。
その他		0%	
テキスト	テキストは用いない。		
参考文献	授業中に指定する。		

関連ページ	
その他、履修生への注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からオンラインサービスを活用している学生、IT業界への就職を検討する学生の履修を歓迎する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、授業運営方法を変更する可能性がある。初回の授業ガイダンスに必ず出席し、授業の達成目標と運営方法について最新情報を理解すること。</li> <li>・本学の対面授業実施の原則に従い、講師は毎回教室から教室内の学生とオンラインの学生に対して授業を行う。</li> <li>・ゲストスピーカーによる授業は、日本のIT企業関係者に依頼し、現場での経験を中心に講演いただく。日程調整の都合で、授業スケジュールを前後する可能性がある。</li> </ul>
実務経験のある教員による授業科目（令和2年度から該当科目に記載されます）	
実務経験の概要	ソフトウェア会社で技術者として4年働いた後に、サイバーセキュリティ対応を行う非営利団体で15年にわたり、サイバーセキュリティ問題に取り組んできた。
実務経験と授業科目との関連性	上記の、実務経験を元に講義を行う。